PICKIN' SINGIN' GINZA **Rocky Top** かわら版

第55号

'00, 6, 1 発刊

拝啓 June

しとしとぴっちゃん、しとぴっちゃんの6月です。人間にとって嫌な雨も、植物にとっては恵みの水。来たる夏のフェスの前に、森の木々達にはたっぷりと緑の源をたくわえてもらいましょう。

ロッキートップ新メニューSpecial

ロッキートップも時代のニーズ(？)に答えて少しずつ変わります。今回、メニュー盤更新もあり新メニューがいくつか加わりました。

◎メキシコ風野菜いため…色とりどりの野菜とひき肉をタコソース等でいためたぴりっと辛い一品。ビールにぴったりです。マネージャー小柳が試作中、辛さに胃をやられながらもたどりついた渾身の作です。（からーなー）

◎ジャンバラヤ…ファミレスでおなじみのメニュー。ロッキーのは、ひき肉と野菜（アボガド入）をたっぷり使ってます。ちょい辛のボリュームたっぷりなごはんものです。

◎じゃがいもチーズ焼…間違いないうまさ。じゃがいもにピザソース、とろりとチーズがかかり、バーボンのつまみとしてGoodです。

◎新カクテル…トマトジュース導入により、メニューが増えました。
ジンベース→ブラッディサム　ウォッカベース→ブラッディマリー　テキーラベース→ストローハット
ビールベース→レッドアイ、カシスビア、シャンディーガフ

【値下げ情報】ジャックダニエル、ワイルドターキーのボトルを¥8800から¥8,400に下げました。どうぞよろしく！

【募集中】ロッキートップのちらしを置いてくれる店etcを募集しています。もしありましたら、スタッフに一声かけて下さい。

「今月の田口マスターの動きはあまりに悲惨で紙上発表不可能と判断し休みました。」

チーフ井上の初体験コーナー ～芝居の巻～

来たる7/5～7/9 5日間にわたって、六本木の「アトリエフォンテーヌ」という所で、つかこうへい原作の「幕末純情伝」をやります。チーフ井上は薩摩の人斬り田中新兵衛の役で登場します。セリフ5、6言の後土方歳三に斬り捨てられるのですが、その3分間に全てをかけるぜ！　そして主題歌も自分が作詞、作曲、歌で、最後に流れます。

芝居を作るというのは非常に客観的な目が必要で、演出家がその全てを握っています。けいこ中は、ダメ出し（いったん芝居を止めてダメな部分も指摘する）の連続で、いったい一つの芝居を作るのに、どれほど時間がかかるのだろう？と思ってしまいます。出演者の大半が20代、総勢27名のキャストで幕末にいどみます。プロの役者になりたい！とギラついてる奴ばかり。それぞれの個性がぶつかり合って時にはこぶしが飛んだり女の子が泣いたり…。音楽は楽器を通して分かり合えるけど、芝居は体一つが全て。全身で表現するだけにパワーのいる世界です。そしてTVなどの映像と舞台は全く違います。セリフがきこえてなおかつ魅せる動きが必要とされる舞台は音楽のライブそのもの。自分にとっても今後いかせる何かをつかめそうです。エレベーター横にチラシありますのでよかったら見に来て下さい。チケットはいつもチーフ井上持っております。

（初心者向け）ブルーグラス楽器とその特徴 バンジョーの巻

この音がきこえたとたん、「ブルーグラスだねー」と言わせるだけの、まさに中心の楽器だ。太鼓をたたくのにあきた、あるアフリカ人が、弦を張って指で弾いてみよーと思ったのが始まりと勝手に考えている。そう、アフリカが発祥の地なのだ。この楽器も弾く人はなぜか理数系が多い。スピード感あふれた右手のフィンガリングにすばやく音を組み立てていく左手のフォームを要するためと思われる。しかし、「フォギーマウンテンブレイクダウン」で多用されるクーンクーンのチョーキングがたまらない。どこであれを入れるかが、バンジョー弾きの醍醐味とも言える。それと一度ただ持ってみて下さい、信じられないほど重いですよ！　次回はマンドリンです。

Pick Up Live！

6/6（火）バンジョークラブ初出演
Vo.BJ原さとし率いる新バンド。ジャズから日本語のオリジナルまで。ニューロードマップとのジョイントです。

6/19（月）Nakashima Sisters
言わずと知れた中島ファミリーバンドから今回は、由美、絵美、美砂の3人がやって来ます。バンジョーに越田、ゲストで有田さんが出ます。

6/28（水）オン・ザ・ボーダー
Vo.g北農さんの楽器屋そのまんまのバンド名。フィドルに茂泉次郎を迎え、これぞ実力派ニューカントリーバンド。でもトラッドもしっかりおさえるらしい…

7/9（日）恒例の七夕ライブ。女性ボーカル大会やります
PM 6:00～ 1ドリンク付 ¥3,000

ロッキートップのホームページは…
http://www.asahi-net.or.jp/~sd5h-mksm/rockytop12.html

ブルーグラスな人達 ～Meet The Bluegrass～

ブルーグラスとの出会いを通してブルーグラスを考察するこのコーナー。今回は、かつて国本武春さんと605号室、現在Will Beのボーカル&ギター、ミールプロジェクトでは素晴らしいマンドリンプレイヤーだった海宝弘之さん(39)です。本業が役者でありながら、ブルーグラッサーとしても一流。「役者とブルーグラス」→この金にならない決定盤のような人生をたどってみよう

エロ本立ち読みからビル・モンロー

→千葉の富里町出身。すさまじい田舎だった。だが、おやじさんがおもしろい人なのだ。若かりし頃家出して、エノケンに弟子入りしてボーヤをやった。その後食えなくなり千葉に戻って会社を作り、なんとか軌道に乗った頃弘之くんが生まれた。家には好奇心旺盛なおやじが買ったステレオ、ギター、アコーディオン、トランペットと色々あった。3つ上の兄貴がギターで拓郎を弾いてるのを見て、自分もやりたくなった。すると「俺が教えよう！」とおやじさん。古賀メロディーを忠実に教えこまれた。よって初めて弾いた曲は「悲しい酒」。それが小学校5年だ。そして中学に入るとちょー運命的な出会い。あの国本武春さんと同じクラスだったのだ。2人はすぐに意気投合し気がついたら2人で歌っていたという。その後高校、専門学校と8年間一緒だった。周りから怪しまれるほどの仲だった。海宝さんのおやじが津軽三味線を習ってる所で、2人も習わされる。これが国本さんの人生を大きく変えることになる。その国本さん、行きつけのエロ本を立ち読みする本屋があった。ある日いつものように立ち読みしていると、本屋のスピーカーから流れてきたのが、FM東京「ビル・モンロー初来日特集」だった。国本さんは衝撃を受け、佐原のレコード屋で、ビル・モンロー、フラット&スクラッグスのLPを入手。それを海宝さんにきかせたのが中学校2年。次第にはまりつつも、ビル・モンローに関しては、「このおっさん自分じゃうまいと思ってるのかな？」とさっぱり分からなかった。海宝さんはピアレスのバンジョー、国本さんはブルーベルのマンドリンを買い「寿ボーイズ」が始まる。おやじの関係で老人ホームの慰問などで演奏。中えにし芸人人生に入っていくのだ。その後3人になり寿ブラザーズになるが、東京への憧れが…。専門学校に入り、東京に行くも、どうもブルーグラス情報が入手できず。その後一人暮らししつつ、毎日オナニーする悲しみの如く、一人楽器を弾く日々だったが、カワセ楽器を介して知りあった人とバンドを作り、ブルーグラスインもできて、ようやく多くのブルーグラッサーとのつき合いが始まる。それが23才。ずい分待った。「レッグマンション」、国本さんとの「605号室」、そして箱根フェスの暗闇からバンジョーをもってぬっと現れた増田さんが「一緒にバンドやりませんか？」で始まったWill Be。今では役者とブルーグラス2本立てでお茶の水でレコード売りながら頑張っています。役者としても大きな仕事も入りつつある海宝さんのこれからを期待しよう！　最後に本人より一言。「私は心からブルーグラスを愛してます。その為なら何もいとわない！（お一貧乏になると言ってるようなもんだー）」とのこと → 6/20（火）に出演します。